

地域づくり推進研修

「障がいの有無に関わらず共に学び、楽しむ日常を ～アダプテッド・スポーツの考え方を通して～」

「誰もが、障がいの有無に関わらず共に学び、生きる共生社会」を目指して、障がい者の生涯学習環境の整備等を進めている一方、障がいによって学びの機会や共に学ぶ場面が限られているのが現状です。この講座ではアダプテッドの考え方を通し、お互いに理解し合い、必要な支援のもとに関わり合う楽しさを学ぶとともに、公民館活動や学校の体育祭等における具体的な取組につながるヒントを学びました。(受講者数 25名)

〈研修内容〉

○講義 演題 「アダプテッドとは」

講師 東海大学体育学部体育学科 教授 内田 匡輔 氏

○演習 「やってみよう・考えてみようアダプテッドなスポーツ」

1 道具を使わないアダプテッドなスポーツ



- ・ペアじゃんけん ・膝置きジャンケン ・あっち向いてホイッ
- ・体ジャンケン ・グリーンピース ・アルプス一万尺ジャンケン
- ・おちゃらかホイッ ・エアロビクス(ラーメン体操・エビカニクス)



2 道具を使ったアダプテッドなスポーツ(1)

- ・ターゲット型ゲーム(ミニフライングディスクゴルフ
フライングディスク・ディスタンス)



3 道具を使ったアダプテッドなスポーツ(2)



- ・ラインポッチャ ・3vs3ポッチャ
(ハーフコート・カフェコート・ターゲット)
- ・ルール決めポッチャ
- ・モルック(ペットボトル製・木製・100円ショップ製)

受講者アンケートから

- スポーツの概念の広がり、障がいのある人もない人も、一緒に楽しむことが前よりイメージできるようになった。(県・国職員)
- その時のメンバーや動きの得意苦手に合わせてルールや用具を使って柔軟にゲームや遊びを考えていきたいと思った。(学校教職員)
- 「すべての人にスポーツの機会を提供するというマインド」は、他の事にも通じる。(県職員)
- 学校体育は競技スポーツ中心。勝利至上主義で競争ばかりで全くもって嫌な思い出しかない。「公開処刑」…本当にそうだと思う。子どもの人権を考えた体育に変わってほしいと切に願いたい。その意味で。本講座は学校の体育主任の先生方にはぜひ総合教育センターと連携して「必修」研修にしていきたいと思うような内容であった。(一般)
- 分からなさ、できなさを一緒に考えるアダプテッドの視点は、とても必要なことであると感じた。(公民館職員・公民館関係者)
- 皆が楽しくできる様に考える視点を持つことができた。(学校支援に関わるボランティア等)
- 本物の用具から100均でも購入できるものまであり、メンバーや運動、ゲームの仕方を選択できることが分かった。(学校教職員)
- やってみて分かることがある。今回はスポーツそのものの楽しさと、人と関わる楽しさ。(県職員)
- 体を動かして楽しんでいる利用者さんを見て、とても幸せであった。(社会福祉協議会)
- 体の動きがゆっくりだったり苦手だったりする生徒との体育の授業で活かしたい。(学校教職員)
- アダプテッドの視点で、スポーツ大会等を考えてみたい。(公民館職員・公民館関係者)

